

環太平洋産業連関分析学会和文学会誌『産業連関』 投稿要領

環太平洋産業連関分析学会
和文学会誌編集委員会
2022年9月5日改定

I はじめに

環太平洋産業連関分析学会では、和文学会誌『産業連関』への投稿論文等を募集しております。学会の発展のためにご協力くださるようお願いいたします。

【論文等の掲載区分】

当和文学会誌は、投稿論文、研究ノート、依頼論文、講座、報告、書評で構成されます。

1. 投稿論文（査読あり，Refereed paper）

学術的な新規性を有す研究論文を対象とします。匿名の査読者により審査を行います。査読意見にもとづき、編集委員会が採否と掲載区分を決定します。

2. 研究ノート（査読あり，Technical note）

投稿論文に準じる内容で、研究成果の速やかな査読と公表が望まれるものを対象とします。査読意見にもとづき、編集委員会が採否を決定します。

3. 依頼論文（Invited paper）

編集委員会からの依頼にもとづいて執筆いただくものです。同論文は、査読プロセスを経ませんが、編集委員会から著者に改善意見をお伝えすることがあります。

4. 講座（Lecture）

本学会の会員を対象として、産業連関分析の動向等を解説するものです。編集委員会の依頼にもとづいて執筆いただき、複数回のシリーズで掲載します。

5. 報告（Report）

産業連関表の作成や活用事例の紹介、および産業連関表に関連する調査や統計について紹介するものです。

6. 書評（Book review）

産業連関分析に関連した図書や会員の著書などを紹介・批評するものです。

【原稿の編集委員会への送付方法】

原稿等は、次のアドレスに電子ファイルで送付してください。

E-mail: g033bj-submission@ml.gakkai.ne.jp

ご質問等のある場合は、次の連絡先までお寄せください。

環太平洋産業連関分析学会 和文学会誌編集委員会

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 2-39-2 大住ビル 401 号

ガリレオ学会業務情報化センター内

E-mail: g033bj-editorial@ml.gakkai.ne.jp

38 **Ⅱ 原稿の体裁等について(投稿論文・研究ノートを含む全掲載区分に共通)**

39 **【形式等について】**

40 1. 論文等の表紙(第1ページ)には、次の内容のみを書いてください。

- 41 ・ 論文のタイトル(日本語と英語の両方)
- 42 ・ 全著者名(日本文字表記とローマ字表記の両方)
- 43 ・ 全著者の所属と役職
- 44 ・ 全著者の郵便物の郵送先住所と連絡先 e-mail アドレス
- 45 ・ 300字程度のリード文(簡単な内容紹介)
- 46 ・ 文字数、図表の枚数

47 2. 原稿の各ページには、ページ下中央にページ番号を記載してください。また、この執筆
48 要領のように本文左側に行番号(原稿を通しての連番)を表示してください。

49 3. 句読点は、句点「。」読点「,」としてください。

50 4. 見出しは原則的に2段階とし、次の例に示すようにナンバリングしてください。また本
51 文中では、それぞれ「節」、「項」と呼んでください。

52

53 **1 節タイトル**

54 **1-1 項タイトル**

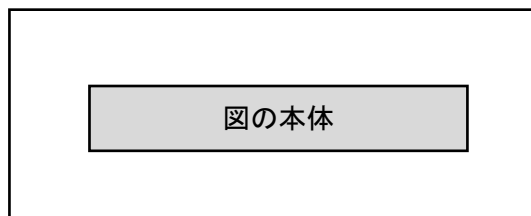
55

56 5. 本文中の図と表は区別して、図1, 2... もしくは表1, 2... などのように「図」と「表」
57 ごとに連番としてください。図と表を一括して「図表1」のように表記しないでくださ
58 い。図のキャプションは図の下、表のキャプションは表の上に表記してください。また、
59 図表中の数値には、必ずその単位を明記してください。

60 6. 原稿を編集委員会に送っていただく時点では、図表は本文中に組み込むことを原則とし
61 ます。ただし、掲載決定後の編集過程で、本文とは別ファイルの図表の作成・提出を依
62 頼します。

63 7. 図表の出所・出典^{でどころ}の明記をお願いします。作成にあたって依拠した資料は「(出所) ◇△
64 ▽」として明記してください。筆者が統計資料などから作成した場合は、「(出所) ◇△
65 ▽をもとに筆者作成。」「(出所) 集計結果より筆者作成。」などと表記してください。

66 **◎図のキャプションと出所の記載例**



67

図1 図のキャプション

68

(出所) 総務省他「〇〇年産業関連表」取引基本表より筆者作成。

69

70 ◎表のキャプションと出所の記載例

71 表 1 表のキャプション

72 (出所)「〇〇年東京都産業連関表」地域間表より筆者作成。

73 【脚注等について】

- 74 1. 文章中の注は、文末脚注として、連番をふってください。注の連番は、半角のアラビア
75 数字としてください。
- 76 2. 文章中での引用文献は、「著者名(出版年)」で表記し、文末の参考文献リストで一括記
77 載してください。論文末の参考文献リストは別紙「参考文献リストの記載例」に従って
78 作成してください。
- 79 3. 使用する統計データの名称等は文章中や図表の出所に明記してください。その際は、下
80 記の記載例のように、出所となる統計資料を特定するように記載してください。ただし、
81 原則として文末の参考文献に記載する必要はありません。

82 ◎統計データの記載例

- 83 総務省他「〇〇年産業連関表」取引基本表
84 総務省他「〇〇年産業連関表」物量表
85 総務省他「〇〇-〇〇-〇〇年接続産業連関表」雇用表
86 経済産業省「〇〇年延長産業連関表(〇〇年基準)」

87 【数字と数式について】

- 88 1. 数値は原則として桁区切りカンマを入れて表示して下さい。また、数字は半角文字の立
89 体フォントで記述してください。
- 90 2. 数式の作成は、数式エディターを用いて、わかりやすく作成してください。また、でき
91 るだけ a , b , c 等の英米語のアルファベット文字を用い、 α , β , γ 等のギリシャ文字の
92 使用は避けてください。
- 93 3. 数式のフォントは原則として次のようにして下さい。
- 94 A) スカラー変数： x, y, z のように半角文字の斜字体(イタリック)。適宜、大文字と小
95 文字の表記を使い分けてください。
- 96 B) ベクトル： $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}$ のように半角文字の立体、小文字、ボールド。
- 97 C) マトリクス： $\mathbf{A}, \mathbf{B}, \mathbf{C}$ のように半角文字の立体、大文字、ボールド。
- 98 4. 添え字は一重にし、特別な理由がない場合は変数名の右下につけてください。添え字が
99 数字の場合は $1, 2, 3$ のように立体、記号の場合は i, j, k のように斜字体(イタリック)
100 にしてください。

101

102 ◎数式, 添え字の記載例

103
$$y = f(x)$$

104
$$\mathbf{x} = (\mathbf{I} - \mathbf{A})^{-1}\mathbf{f}$$

105
$$\mathbf{X}_i, \mathbf{f}_i, a_{ij}$$

106 【ソフトウェアについて】

- 107 1. 原則として, 本文は MS-Word で作成してください. ページの余白は十分とって (25mm
108 以上), 1 行 35 文字 1 ページ 35 行で書いてください. フォントサイズは 10.5 ポイント
109 以上を使ってください. MS-Word 以外のソフトウェアを利用の場合は, 事前に編集委員
110 会にご相談ください.
- 111 2. 原則として, 図表は MS-Excel で作成してください. MS-Excel 以外のソフトウェアをご
112 利用の場合は, 事前に編集委員会にご相談ください. なお, 掲載決定後の編集過程で,
113 本文とは別ファイルの図表の作成・提出を依頼します.
- 114 3. 白黒印刷を基本としますが, 色刷りをご希望される場合は, 事前に編集委員会にご相談
115 ください.

116

117 Ⅲ 投稿論文と研究ノートの内容と分量について

118 【内容について】

- 119 1. 投稿者は環太平洋産業連関分析学会の会員に限ります. 共同論文の場合は, 主たる著者
120 が環太平洋産業連関分析学会の会員であることを条件とします.
- 121 2. 論文等の内容は, 産業連関表に関わる経済分析とします. 近年の研究動向を踏まえた理
122 論的・実証的研究で, 学術的な意義の高い内容の論文を歓迎します. 読者としては多部
123 門の経済分析に関心のある大学および研究機関の研究者, 官公庁の調査部門担当者, 大
124 学院生, 及び学部生を想定しています.
- 125 3. 未発表の日本語論文に限ります. ただし, 博士論文, 所属機関等が発行するディスカッ
126 ションペーパーやワーキングペーパーの一部あるいは全体の修正版を投稿することは,
127 本要領に抵触しません.

128 【審査について】

- 129 1. 投稿いただいた論文等について, まずは編集委員会で形式要件等の確認を行います. そ
130 の時点で, 編集委員会から修正依頼を行うことがあります. その後, 匿名の 2 人以上の
131 査読者による査読プロセスに入ります. 査読報告にもとづき編集委員会が「掲載可」と
132 認めた場合, 当和文学会誌への掲載準備に入ります. なお, 査読から掲載までの過程で,
133 研究倫理違反等の確認を行い, 編集委員会からの改善意見を出すことがあります.
- 134 2. 投稿者はデータや調査結果の捏造, 改竄, 盗用, 二重投稿という不正を行わないなどの
135 研究倫理を遵守し, 論文の執筆等を行ってください. インタビュー等については, 記録
136 (音声, 動画等)を残す必要があります. また, インタビュー内容の掲載について, 相
137 手の許諾を得る必要があります.
- 138 3. 万が一, 不正等が発覚した場合, 著者がその責任を負うこととします. 不正の疑いが生
139 じたとき, 和文誌編集委員会はその調査の実施や関係機関への報告, 関係者の処分等を

140 行う倫理委員会を設置するなど、適切に対応します。

141 【分量等について】

- 142 1. 原稿の分量は図表を含んで原則 18,000 字を限度とします。図表は、大きさによって異な
143 りますが、和文誌の 1 ページを 1,200 字として文字数に換算してください。
- 144 2. 図表は原則として 10 枚までとします。なお、見開き 2 ページにわたるような巨大な数
145 表はご遠慮いただき、原数表を当該著者の他の著作から引用するなどして対応してくだ
146 さい。また、判別不能な細かすぎるグラフはご遠慮下さい。
- 147 3. 原則として、過去の和文学会誌『産業連関』から 1 件以上の参考文献を引用してくださ
148 い。ただし、該当する文献が皆無であるなどの特別な理由がある場合は、その限りでは
149 ありません。また、文末に掲げた参考文献は、必ず本文中で参照してください。

150 【著作権について】

151 掲載された論文の公表・出版に関する著作権は環太平洋産業連関分析学会に帰属します。
152 投稿された論文の上記著作権は、最終原稿が本学会に届いた時点から本学会に移転するも
153 のとします。

154 校正時に「著作権譲渡承諾書」を送りますので、署名捺印して、指定されたあて先に返送
155 してください。転載を希望する場合は、事前に書面等で願い出て、編集委員会の承認を得る
156 こととします。

157

158 IV 参考文献リストの記載例

- 159 ・ 日本語文献と外国語文献を分けてください。日本語文献から掲載し、日本語は 50 音順、
160 外国語文献はアルファベット順に並べてください。同じ著者の文献がある場合は、発行
161 の早い順に並べてください。
- 162 ・ 記載例には、日本語文献と英語文献の例を掲載しています。その他の言語の文献を参照
163 する場合の形式については、事前に編集委員会にご相談ください。
- 164 ・ 文献に連番はふらないでください。
- 165 ・ 1 つの文献名が 2 行にわたる場合は、ぶら下げインデントしてください。
- 166 ・ 文献の雑誌論文には、pp.〇-〇のように、該当ページ番号も書いてください。
- 167 ・ 文献の最後は、ピリオドで終わってください。

168

169 ◎日本語文献について

- 170 ・ 複数の著者／編者がいる場合は著者名／編者名を「・」でつなげてください。
- 171 ・ 論文名は「」でかこみ、雑誌名と著書名は『』でかこんでください。

172 著者による書籍の場合

173 新飯田宏（1978）『産業連関分析入門』東洋経済新報社。

174 菅幹雄・宮川幸三（2008）『アメリカ経済センサス研究』慶應義塾大学出版会。

175

- 176 編者による書籍の場合
- 177 石川良文編 (2022) 『コロナの影響と政策—社会・経済・環境の視点から—』創成社.
- 178 山田光男・増田淳矢編 (2020) 『グローバル化と地域経済の計量モデリング』勁草書房.
- 179 書籍中の章の場合
- 180 石川良文 (2022) 「コロナ禍における旅行消費の減少による地域経済への影響」(石川良文
- 181 編『コロナの影響と政策—社会・経済・環境の視点から—』創成社, 第3章, pp.47-65) .
- 182 雑誌論文の場合
- 183 黒田昌裕 (1992) 「全要素生産性の理論と測定 I」『産業連関』, 3(3), pp.37-46.
- 184 下田充・藤川清史 (2012) 「産業連関分析モデルと東日本大震災による供給制約」『産業連
- 185 関』, 20(2), pp.133-146.
- 186 翻訳書の場合
- 187 Leontief, W., and Duchin, F., (1983), *Military Spending: Facts and Figures, Worldwide Implications,*
- 188 *and Future Outlook*, Oxford University Press. (清水雅彦訳(1987)『軍事支出—世界的経済
- 189 発展への桎梏—』東洋経済新報社).
- 190
- 191 ◎英語文献について
- 192 ・ 複数の著者／編者がいる場合は著者名／編者名をカンマ「,」および **and** でつなげてくだ
- 193 さい.
- 194 ・ 論文名は " " でかこみ, 雑誌名と著書名は斜字体 (イタリック) にしてください.
- 195 著書の場合
- 196 Leontief, W. (1986), *Input-Output Economics* (2nd edition), Oxford University Press.
- 197 Leontief, W., and Duchin, F. (1983), *Military Spending: Facts and Figures, Worldwide Implications,*
- 198 *and Future Outlook*, Oxford University Press.
- 199 編者による書籍の場合
- 200 Ueta, K. (ed.) (2012), *CDM and Sustainable Development in China: Japanese Perspectives*, Hong
- 201 Kong University Press.
- 202 Ichimura, S., and Ezaki, M. (eds.) (1985), *Econometric Models of Asian Link*, Springer.
- 203 書籍中の章の場合
- 204 Kagawa, S. (2011), “An Empirical Analysis of Industrial Waste Embodied in the 1995 Japanese
- 205 Economy,” in Kagawa, S., *Frontiers of Environmental Input-Output Analysis*, Routledge, Chapter
- 206 4, pp.65-84.
- 207

208 雑誌論文の場合

209 Chenery, H., Shishido, S., and Watanabe, T. (1962), “The Pattern of Japanese Growth, 1914-1954,”
210 *Econometrica*, 30, pp.98-139.

211 Arif-Ur-Rahman, M. and Inaba, K. (2021), “Foreign Direct Investment and Productivity Spillovers:
212 a Firm-level Analysis of Bangladesh in Comparison with Vietnam,” *Journal of Economic*
213 *Structures*, 10(17), pp.1-23.

214

215 ◎ウェブサイトについて

216 ・ ウェブサイトの記事を引用する場合は、そのサイト名、サイトの URL、最終閲覧日を書
217 いてください。

218 ・ 参考文献リストで文献と同様に著者等の名称順に並べて下さい。

219 経済社会総合研究所/国民経済計算年次推計

220 < https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/kakuhou/kakuhou_top.html >

221 (最終閲覧：2022年9月5日)

222 ・ PDF の場合はその PDF がリンクされているサイト名と PDF の URL を書いてください。

223 総務省/産業連関表/平成 12-17-23 年接続産業連関表（一総合解説編一）

224 < https://www.soumu.go.jp/main_content/000427519.pdf >

225 (最終閲覧：2022年9月5日)

226

227

以上